

1 学校教育目標

広い視野をもち、夢を追いかけ、未来にはばたく人間を育成する。

- ・自ら学ぶ人
- ・協力しあう人
- ・健やかな人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ生徒を育む学校 ・豊かな心を育む学校 ・地域が誇れる学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をもって自ら学ぶ生徒 ・規範意識をもって互いに協力しあう生徒 ・健康を意識し、体力向上に努める生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・向上心をもって実践力、指導力を高める教師 ・生徒に寄り添い、情熱をもって職務を遂行する教師 ・生徒、保護者、地域から信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

学校生活では、落ちついた雰囲気の中で教育活動が継続して行われ、生徒たちは笑顔と元気なあいさつをして、授業や学校行事・生徒会活動・部活動等に意欲的に取り組んでいる。特に、本校の二大行事である「運動会」と「江北桜祭」においては、生徒アンケートや事後の作文等で表れているように高い達成感を体験する場となっている。両行事とも生徒が中心となり実行委員会を組織して、協力し、各クラスや学年の団結力を高める活動ができる行事となっている。生徒たちは、委員会や部活動などの生徒会活動にも積極的に取り組んでいて、生徒の自治の力を育むことができる活動となっている。また、ボランティア活動に取り組む生徒も年々増加するなど、地域と一体となった教育活動にも広く取り組んでいる。

2 前年度の成果と反省

<成果>

○令和6年度区調査通過率は、令和4年度60.8%から67.3%に+6.5%大きく上回った。

基礎学力の定着に向けた、学習コンテストや家庭学習ノートの点検活動など地道な指導の成果が表れた。

○生徒会活動へ意欲的に取り組む生徒が増加し、全学年の交流レクリエーション（生徒会企画）や他学年への応援活動など、生徒の企画・運営による活動により、生徒同士の健全な交流が深まり、学校全体の生徒活動が活性化した。

○生徒アンケートより「仲間を大切にし、思いやりの気持ちをもって仲間と接している」の問いに対して、肯定的評価が96%あった。仲間同士のトラブルも見受けられる場面もあるが、素直な自分の気持ちをもつ中で、トラブルを解決し、良い関係を築こうと努力している様子が見られた。

<課題>

- 非常に多くの生徒が定期テスト前に学校図書館を活用し、自学・自習に取り組んでいる。日常的に学校図書館で自学・自習に取り組んでいる生徒の姿も見られるが、さらに増やしていくことが課題である。
- デイリーノート等の提出はほぼできているが、家庭学習の習慣化についてはまだまだ努力が必要である。生徒が自ら課題を見つけ、学習に取り組む習慣を身につけさせていくことが課題である。
- 特別支援教室の運営は順調にできているが、通常学級の生徒・保護者および教員も含めて学校全体で特別支援教育の理解促進を深め、組織的に取り組むことが課題である。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心をもつ生徒の育成	○	○	○	○	○

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の定着と自ら学習に取り組む生徒の育成		年度末到達度確認テスト 正答率60% 令和7年度区調査 通過率61%		年度末到達度確認テスト 正答率56.6% 令和7年度区調査 通過率68.1%		・令和7年度区調査通過率は目標より7.1%大きく上回った。 ・学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 継続	授業改善とICTを活用した授業推進	全教科	年2回	足立スタンダードに即した授業改善と効果的なICT機器を活用した授業の実践。	年2回の授業観察時に実施の確認	全ての教員の実施を確認し、効果的な授業方法の工夫を検討する。	ICT機器を活用した授業の実践については、全ての教員が取り組んだ。教科の特性や個人により差がでている。	個人タブレットを使用した授業実践については、特に教科の特性により差がある。工夫して取り組んでいく。	○
2 継続	学習コンテンツ (漢字・計算・スペリング)	3教科	年3回	3教科の基礎的内容の定着を図る。 ・漢字7月 ・スペリング11月 ・計算1月	プレテスト 本テストの実施	平均合格率80%を目標とし、達成感と自己肯定感を高める。	3教科の平均では80%にはやや届かなかったが、自主的な学習へのきっかけとなった。	多くの生徒がコンテンツの入賞を目標として取り組み自己肯定感を高めている。継続していく。	○
3 継続	読書指導と学力補充	3教科	年間	朝のベーシックタイムと放課後の学力補充における読書指導および基礎反復学習	進行管理(計画と実施)	計画の90%以上の実施	進行管理を2か月ごとに実施し、90%以上の取組ができた。	計画の90%以上は十分達成した。補充学習と読書活動のバランスが難しいところもあったが、今後も継続していく。	◎
4 継続	区学力調査の検証テストの実施	3教科	9月	区学力調査の検証テストを実施し、基礎学力の向上を図る。	区学力調査の検証テストの実施	3教科の通過率、正答率の5%の上昇	3教科の通過率は3.3%、正答率は0.9%の上昇であった。	通過率、正答率ともに目標を達成することができなかった。教科によって差があることが課題である。	△
5 継続	家庭学習の習慣化	全学年 全教科	通年	家庭学習を習慣化させるためにデイリーノート、家庭学習ノートを活用し、自学自習の習慣化を図る。	デイリーノート、家庭学習ノートの確認、生徒アンケートの実施	毎日の家庭学習の習慣化、生徒アンケート率80%以上。家庭学習の定着を目指す。	毎日のデイリーノート、家庭学習ノート家庭学習の提出率は90%であった。家庭学習の習慣化、生徒アンケートでは、71%であった。	デイリーノートや家庭学習ノートなど決められた家庭学習には取り組むが自主的な家庭学習の習慣化には至っていない。今後も継続して取り組んでいく。	△

6 新規	中学校授業 研修会の実施	全教科	7月	江北ブロック内の中学校 連携において、研究授業 を実施し授業力の向上を 図る。	研究授業の実 施・確認	研究授業を実 施し授業力向 上の成果を確 認する。	ブロック内の中学校 と連携して、授業研 究を中心とした研修 会に全職員で取り組 んだ。	全教科の研究授業を 実施することによ り、各教科互いに交 流を深め授業力の向 上につなげることが できた。	◎
---------	-----------------	-----	----	--	----------------	------------------------------------	---	--	---

重点的な取組事項－2		豊かな心をもつ生徒の育成							
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題		達成 度	
豊かな人間性と社会性をもち充実した 学校生活を送る生徒の高い割合		「学習や生活に関する調査」で該当項 目の肯定的評価を以下の規準で判断 A=90%以上 B=70～89% C=70% 未滿		「思いやりの気持ち」「善悪の判 断」「物を大切にすること」につ いて、生徒の意識調査での肯定的 評価は95%以上「A」評価であっ た。		どの項目も学年が上がるに つれて数値の値も上昇して いる。その時々課題はある が課題を解決しながら学校 全体としては高い数値で集 団が上昇している。		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
項目	達成基準		具体的な方策		実施結果		コメント・課題		達成 度
充実した道徳教育	道徳授業の時間 A=35回以上 B=30～34回 C=30回未滿 調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70～ 89% C=70%未滿		<ul style="list-style-type: none"> ・全教員のローテーションに よる道徳授業の実践 ・いじめ撲滅週間の実施 ・人権学習週間の実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業の時間確保については 「A」（35回実施） ・全教員によるローテーションを 実施し、授業変更等で授業時数を 確保して、実施した。 		年間計画に沿って指導を行 っているが、人権週間などの 時期に適した題材の活用も 行った。今後も研修等にも取 り組み、指導者のスキルを向 上させ取り組んでいきたい。		◎
意欲的な学習活動	調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70～ 89% C=70%未滿		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のやる気を引き出す足 立スタンダードに基づく授 業 ・学習課題の適切な管理 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意識調査での肯定的評価 は91%「A」評価であった。 ・放課後、学校図書館を利用し、 自習に取り組む生徒が増加して いる。定期テスト前は、多くの生徒 が自習に取り組んでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の肯定的評価は 96%であった。学年が進行 するにつれて上昇傾向にあ る。 ・多くの生徒が授業には意欲 的に取り組もうと意識して いるので確かな学力を定着 させていきたい。 		○

思いやりの心をもった生徒の育成	調査で肯定的評価 A=90%以上 B=70~89% C=70%未満	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への自主的な参加促進 ・生徒の自主性を生かした生徒会活動（委員会、部活動、交流活動等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意識調査での肯定的評価は98%「A」評価であった。 ・委員会活動や部活動、生徒会主催の交流活動・企画に多くの生徒が積極的に参加し、学年を超えた交流の場となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や江北桜祭などの学校行事では、多くの生徒が達成感や協力の大切さを学ぶ機会となっている。 ・生徒会主催の交流活動が活発に行われ、参加者や応援者などが学年を超えてかかわりを持ち、交流する場となっている。今後も継続させていく。 	◎
読書活動の推進	学校図書館の利用者数（月平均） A=400人以上 B=300人~399人 C=300人未満	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の励行 ・図書委員会の活動活性化 ・学習活動での学校図書館の利用促進 ・放課後の自習での活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の利用者数（月平均）A=400人以上となった。 ・放課後の自習でもよく活用されている。利用者も年々増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会で本の紹介を行うことにより、読書に関心をもつ生徒も増えている。 ・学校図書館の自習室としての活用も定着してきている。学校図書館を様々な形で広く活用していきたい。 	○
体験・交流活動および継続的なキャリア教育	ボランティア生徒数 A=100名以上 B=80~100名 C=79名以下	<ul style="list-style-type: none"> ・地域等での異年齢交流ボランティア活動 ・体験活動の実施 ・職場体験及び上級学校訪問等 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域等での異年齢交流ボランティア活動には、250名以上の参加があり、参加要請も増加した。 ・2年生は職場体験、1年生は講師を招いてワークショップを実施し、社会体験に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動への積極的な参加が増加し、予定人数に対して抽選となることもあった。 ・本格的なバレエの体験活動と鑑賞を実施したが大変好評であった。今後も様々な企画を考え、実施していきたい。 	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【成果】・令和7年度区調査通過率は令和4年度60.8%、令和5年度67.8%、令和6年度67.3%、令和7年度68.1%、となり、目標値を大きく上回り、上昇傾向となっている。

- ・学習委員会が中心となりクラスで呼びかけを行ったり、定期テストの予想問題を作成したり、キャンペーン活動を実施したりすることにより、生徒同士のクラスの関係から学年・学校全体で学習に取り組む雰囲気構築されつつある。
- ・家庭学習への取組においては、毎日のデイリーノートや家庭学習ノートの提出率は90%となったが、家庭学習の習慣化、生徒アンケート

では、71%であった。家庭において、自ら学習に取り組む姿勢を確立していくことが課題である。

【課題】・国語において、文章の要約やしらべた内容を文章にすることを苦手とする生徒が多い。

- ・英語において、記述式の問題を苦手とする生徒が多い。
- ・数学において、正確な計算力が身につけていない生徒が多い。

【対策】・国語において、スピーチの発表時に話を聞く際のメモの取り方を指導し、聞いたことを文章にまとめる練習などの課題に取り組ませる。

- ・英語において、要点を確認する問題や要約に取り組ませて、聞き取った内容を捉える力を養成していく。
- ・数学において、見通しを立ててから立式することや、計算過程を大事にすることにより、系統立てて自力解決できる力を養っていく。

イ 豊かな心をもつ生徒の育成について

【成果】・生徒会活動（委員会・係活動・部活動等）では、生徒が主体的・積極的に取り組む姿が見られ、保護者アンケートでは87%の肯定的意見があった。運動会や江北桜祭などの学校行事において、生徒が主体となって運営する実行委員会が活躍する場面が多く見られている。

- ・生徒会が中心となり企画・運営を行う全学年の交流レクリエーション（生徒会企画）や他学年への応援活動においても学年を超えた生徒同士の交流が広く見られた。
- ・保護者アンケートの「生徒は熱心に行事や教育活動に取り組んでいるか？」の問いに対して89%の肯定的評価があった。
- ・生徒アンケートより「仲間を大切にし、思いやりの気持ちをもって仲間と接している」の問いに対して、肯定的評価が98%あった。仲間同士のトラブルが見受けられる場面もあるが心の奥底では仲間を大切にすることを皆が持ち合わせているので、学校生活での様々な経験や体験を通して良好な関係を構築するように指導を続けていきたい。
- ・ボランティア活動に積極的に取り組む生徒が増加し、地域から称賛の声も多数いただいている。今後も奨励していく。

【課題】・不登校の状況には様々な理由があり、不登校生徒の減少に課題が残る。

【対策】・来年度 SSR（スモールステップルーム）の設置を予定している。生徒一人一人の事情に寄り添うとともに外部機関やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとともに共通理解を図り、具体的な対応につなげていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

本校では、生徒一人ひとりの自主性や主体性を尊重し、生徒が自ら考え行動する自治活動に注力しています。活動を通じて集団としての質を高めつつ、互いを思いやる豊かな心を育む「心の教育」を推進しています。

○生徒主体の活動と成長

リーダーシップの育成：生徒会や部活動において、上級生がリーダーシップを発揮し、学年の枠を超えた一体感のある活動を展開しています。

信頼関係の構築：学年を追うごとに生徒同士の信頼が深まり、集団としての強固なまとまりが生まれています。

行事の企画・運営：生徒会が中心となり、生徒自身が企画・運営を行う「生徒会企画」などを通じて、学校全体で行事を楽しむ文化が根付いています。

今後も、生徒の熱意や主体性を活かした行事に取り組み、思いやりの心と自治の力をより一層伸ばしていけるよう努めてまいります。

(3) その他（学校教育活動全般について）

本校の二大行事である「運動会」と「江北桜祭」は、生徒による実行委員会が中心となって運営を支えています。近年の厳しい状況下においても、その歩みを止めることなく着実に伝統を継承してきました。今後もこの良き伝統を守り、さらなる発展を目指して、生徒と教職員が一体となり邁進してまいります。